



議会図書室からのお知らせ

インターンシップ参加学生選書

『豪雨災害の水文学』

～流域治水に必要な流出モデルの
パラダイムシフト』

谷 誠【著】/鹿島出版会 (2026/5)



すいもんぐ
「水文学」とは、陸地の水の動きを扱う地球科学。水害や土砂災害の「減災」を工学的に支えるという社会的使命を持つ。流域治水に求められる「水文学」とは何か？既存モデルの整合性を探り、新しい方向性を提示する。

インターンシップ参加学生選書

『ギャンブルのからくり』

～確率・統計であばく「必勝法」のウソ』

谷岡 一郎【著】/講談社 (2026/7)



胴元はなぜ、必ず儲かるのか？確率論で解き明かす「巧妙なからくり」とは？実は不確定要素が少ないギャンブル。確率・統計の知識に基づく「期待値的に正しい」賭け方の科学を徹底伝授。破滅しないための1冊。

☑ 本のタイトルには、出版社の本の紹介のリンクが貼ってあります。
出版社での紹介がないものは貼っていません。

今月の新着図書

R8年10月（一般用）

『「やめられない」をどうするか』

～きみと同じことで悩んでる大人たちの生存戦略』

松本 俊彦/横道 誠 他【著】/金子書房 (2026/7)



「やめられない」ことに悩む若者たちに向けて、様々な依存に悩む当事者と各分野の専門家が真正面から向き合い対話する。依存は「悪」や「病」だけでなく、「コーピング」にもなりうると語り、悩むみんなの背中を押す。

『しくみがわかればガチでももしろい！選挙・政治のふしぎ』

セイジドウラク【編】小迎 裕美子【漫画】/小学館 (2026/6)



スポーツやゲームのように仕組みやルールを知れば、選挙も政治も100倍楽しめる！趣味のように政治を語るポッドキャスト番組がナビゲートする、「選挙の仕組み」から「政治の基礎知識」まで、笑いながら学べる書。

『世界のエリートがやっている最高の休息法【完全版】～「脳疲労」がすぐ消える科学的に正しい脳の休め方』

久賀谷 亮【著】/ダイヤモンド社 (2026/7)



しっかり休んだのになぜ疲れが取れないのか？勝手に疲労を溜める脳には「科学的に正しい休ませ方」があった！集中力や行動力を高める「休息メソッド」を、イエール大で学び、米国で活躍する精神科医が明かす。

『奇跡のプロジェクト 図書館が街を変えた！』

～新生・荒尾市立図書館の挑戦』

高井 昌史【著】/東洋経済新報社 (2026/5)



「コンパクトシティ」に対応したまちづくり施策の一環として移転・開館した熊本県荒尾市立図書館。行政・民間が一体となり、小さな都市で行われたこの図書館再生プロジェクトの全貌とは？「本の力」が町を変える！

『戦争を甘く見る空気』

～1930年代と似た道を進む現代日本』

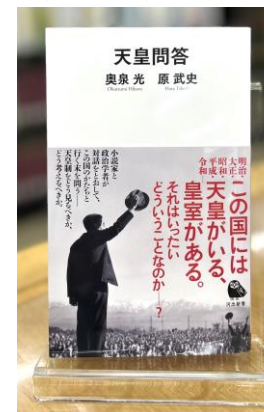
山崎 雅弘【著】/朝日新聞出版 (2026/7)



物価高騰、軍備拡大、反外国人感情、アルゴリズムによる情報選別など、今の空気は戦前と重なるという。戦争への道を「正しい道」と錯覚する過ちを繰り返さないために、過去と現在の対比を通じて、取るべき針路を探る。

『天皇問答』

奥泉 光・原 武史【著】/河出書房新社 (2025/1)



「皇室典範」等の問題で議論に上る「天皇制」。そもそも天皇・皇室が存在するとはどういう事なのか？天皇制を題材として扱ってきた小説家と、天皇研究者である政治学者が、対話を通じてその本質に迫る。



新着

『令和の米騒動
～食糧敗戦はなぜ起きたか?』

鈴木 宣弘【著】/文藝春秋 (2025/10)



「令和の米騒動」はなぜ起きたのか？それは流通の問題ではなく、減反政策による米不足と農家疲弊、つまり「農政の失敗」に原因があると著者は主張する。米問題の構造と処方箋を描き出す。

新着

『おいしい日本の野菜が消える日
～二極化する農業の未来』

久松 達央【著】紀平 真理子【学術・構成協力】/光文社 (2026/5)

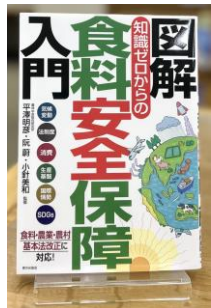


日本の農業は「企業型」と「職人型」に二極化し、おいしい国産野菜は消える？日本農業はなぜ産業化が遅れ、ガラパゴス化したのか。小売業から現役官僚まで、著者が多業種の方を訪ね、「農業の未来」を議論！

新着

『図解
知識ゼロからの食料安全保障入門』

農林中金総合研究所・平澤 明彦 他【監修】/家の光協会 (2024/12)

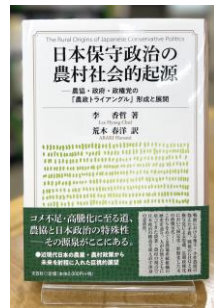


コロナ禍、ウクライナ侵攻等の国際情勢で注目が集まる「食料安全保障」。農林中金総合研究所の研究員3名を筆頭に、食料安全保障の「今とこれから」を、図解を交えて分かりやすく解説。

新着

『日本保守政治の農村社会的起源
～農協・政府・政権党の「農政トライアングル」形成と展開』

リヒャンチャル 李香哲【著】荒木春洋【訳】/文芸社 (2026/4)



戦前における地主・小作農間の抱えた矛盾、戦後GHQと政権与党による思惑、長期政権化において固定化・形骸化した末の政権交代。これらを巡る「農協系統組織」の歴史を辿り、農業・農村視点で政治構造を捉え直す。



『明日、もっと自分を好きになる
「私らしく生きる」をかなえる
感性の育て方』



【著者】古性 のち/KADOKAWA(2024年5月)



紹介者：丹羽 あゆみ委員
自由民主党・みどり市選出・1期

「感性」と聞くと、生まれ持ったセンスや特別な才能のように思っていたが、この本を読んで、感性は日々の中で育てていけるものだと思います。何気なく見ている景色、誰かとの会話、ふと心が動いた瞬間。「なぜ私はこれが好きなんだろう」「今、どうして気になったんだろう」と、自分の小さな反応に目を向けてみる。そんな積み重ねが、自分を知ることにつながっていきます。

情報があふれ、誰かの考えや評価がすぐ目に入る時代だからこそ、自分が感じたことを置き去りにしないことは、意外と大切なのかもしれません。この本を読んでから、いつもの景色や人との出会いにも、少し丁寧に目を向けてみたくくなりました。

毎日をちょっと違う角度から見てみる。そんなきっかけをくれる一冊です。

▶次号では、鈴木 数成委員におすすめしていただきます！

